

株式会社ユーキャン様

先進のeラーニングシステムを四川省・成都へ展開 通信教育の中国展開、世界展開へ大きな一歩

通信教育大手のユーキャンは、中国・成都ウィナーソフトグループと合併会社を設立し、中国での通信教育事業を開始した。サービスを支えるeラーニングシステムは、NTTデータが開発を担当。アプリケーション開発から、ハードウェアとミドルウェアの現地調達、インフラ構築まで、1社で一貫して請け負い、グローバル・カバレッジを発揮した。テキスト教材とeラーニングを組み合わせた同サービスは、中央官庁主導プロジェクトのプラットフォームとして採用が決まるなど、中国で高く評価されている。ユーキャンと成都ウィナーソフトグループはパートナーシップをさらに深め、協業ビジネスを拡大していく計画だ。

強いパートナーシップのもと合併会社を設立 中国での通信教育事業がスタート

「生涯学習のユーキャン」ブランドで、通信教育講座、出版物、音楽・映像ソフトの通信販売を展開するユーキャン。同社は、2013年、中国四川省の成都ウィナーソフトグループと、合併会社「成都生涯科技有限公司」(以下、英語名の「U-CAN CHINA」と表記)を設立して、中国での通信教育事業を開始した。

「1954年の創立時から60年にわたって蓄積してきた通信教育のノウハウを、グローバル展開したい。その第一弾として、中国西部・内陸部の中核都市であり、今後のめざましい成長が予想される成都市で、合併会社を立ち上げました」と、株式会社ユーキャン システム本部システム企画部 次長の中村文彦氏は語る。

ビジネスパートナーである成都ウィナーソフト有限公司(以下、「成都ウィナーソフト」)は、成都市の「サービス・アウトソーシングの総合窓口会社」として



株式会社ユーキャン
システム本部システム企画部
次長
中村 文彦氏

て、ITO(IT アウトソーシング)、BPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)、KPO(ナレッジ・プロセス・アウトソーシング)の3つをトータルに提供する企業である。具体的には、人材教育サービス、日本企業の中国進出サポート、IT 関連事業という3つのコア業務に加えて、四川省初の日本語学校、IT 教育学校、人材サービス会社などを運営している。また同社は、成都市ソフトウェア産業協会および成都市サービス・アウトソーシング協会の副理事長を務め、成都市のソフトウェア産業の隆盛をリードする立場の企業だ。2013年 Fortune China 誌で、「中国で最も潜在力のある非上場企業トップ100」に、成都市で唯一選ばれた、成長著しい企業でもある。

「中国にはeラーニングのサービスはたくさんありますが、テキスト教材と組み合わせたサービスは新しい試みです。また、有料チケット制ではなく、いつでも何回でも質問できるユーキャンのやり方は、中国の人にとっては初めての体験。ユーキャンは、学習しやすさと受講生のモチベーション維持を追求してきた長年のノウハウを「U-CAN 学習法」として体系化しており、これを広めていくことは中国の役に立つと考えました」と、成都ウィナーソフト総裁兼CEOの周密氏は語る。

アプリケーション開発から、現地調達、 インフラ構築まで一貫して対応するグ ローバルカと“Clients First”の精神

中国で初の試みになるという「テキスト教材とeラーニングとのハイブリッドサービス」。これを支えるeラーニングシステム、名づけて「e生涯」は、日本のユーキャンで使用しているシステムをベースに

株式会社ユーキャン

本 社 所 在 地 東京都新宿区高田馬場4-2-38
創 立 1954年6月
資 本 金 9,000万円
従 業 員 600人
主 要 事 業 内 容 「生涯学習のユーキャン」ブランドで、通信教育講座、出版物、音楽・映像ソフトの通信販売を展開。通信教育事業では、資格・技能・趣味・教養など幅広いニーズに応じた約120の講座が、年間約80万人に利用されている。2006年、株式会社日本通信教育連盟から社名変更。
U R L <http://www.u-can.co.jp/>

成都ウィナーソフト有限公司

本 社 所 在 地 成都市天府大道南延線 高新区天府ソフトウェアパークB3座2階
創 立 2007年2月
資 本 金 3000万人民币
従 業 員 530名
主 要 事 業 内 容 成都市のサービス・アウトソーシングの総合窓口会社。国際型IT人材育成、ソフトウェアのオフショアおよび開発、システムインテグレーションで、高い品質とサービスを誇る。教育トレーニング事業を中国全土に浸透させ、サービス・アウトソーシング事業の普及により「世界の500強企業」に躍進するのが目標。
U R L <http://www.winnersoft-china.com/japan/index.asp>

してローカライズするとともに、現地で必要となる機能を追加開発し、さらに最新の仮想化環境に置き換えて作り上げた。

そもそも日本で使用しているシステム「学びオンライン プラス」は、2011年5月に稼働開始した。

動画・テキスト・クイズ形式のテストなどのコンテンツをインターネット経由で視聴する「受講生機能」と、社内講師および在宅講師がコンテンツを登録したり、受講生からの質問に答えたりする「社内ユーザ機能」の2つのサブシステムで構成され、2種類の開発フレームワークをベースに、フルスクラッチ開発した。スマートフォン、携帯電話、PCなどを幅広く使って動画まで見られるマルチデバイス対応、講師と受講生が互いにメールアドレスを通知することなく、安全にやり取りできるセキュアなメール管理など、先進的な機能を満載したeラーニングシステムである。

日本の「学びオンライン プラス」開発の中心を担ったのがNTTデータだ。ユーキャンは、中国の「e生涯」システムを開発するにあたって、アプリケーション開発を一本化してNTTデータへ依頼した。さらには、ハードウェア/ミドルウェアの現地調達、データセンターでのインフラ構築まで、NTTデータ1社でまとめて請け負うことになった。

「日本でのシステム開発を通じて、NTTデータに



成都ウィナーソフト有限公司
総裁兼CEO
周 密氏

対しては、要員の技術力の高さ、的確な工数見積もり・品質保証・納期順守などに至る総合的なプロジェクト・マネジメント力、われわれの業務を理解して優先的に実現しようという“Clients First”の精神などを高く評価していました」と中村氏。

さらに中国展開に際しては、サーバ、ネットワーク機器などのハードウェアや各種ミドルウェアを現地調達する能力・ノウハウも必要だった。

「中国で使うものを中国で調達するのがあたりまえではありますが、購入ルートによって価格が割高になるミドルウェア製品もあります。何をどのように調達するか、NTT データが調査・判断し、現地法人のNTTデータチャイナと協力して動くことで、最適形で調達してくれました。当初は予定していなかったインフラ構築も、しっかりしたプロジェク

ト・マネジメントで進行させ、安全確実にやり遂げてくれました」と中村氏は評価する。

NTT データは、グローバル・カバレッジと、システム構築にまつわる幅広い業務を一貫して実現できる人材の力を発揮して、ユーキャンの期待に応えたのである。

中国現地のやり方に合わせ、人間系の工夫を加えて、距離と言語の壁を乗り越えた

「e生涯」システムの開発にあたっては、データセンター選びを重視した。チャイナテレコムと契約して、高速な通信回線と24時間365日の安定稼働体制を確保したのである。

画面やコンテンツの中国語化は、成都ウィナーソフトが担当した。単なる日本語から中国語への置き換えではなく、中国の習慣に合わせた言葉の使い方を工夫して「現地仕様化」を行った。

それでも、距離と言語という2つの壁は予想以上に大きく、さまざまな苦勞を乗り越えなければならなかった。

「たとえば、オンライン課金システムは、中国でも汎用的な決済システム『アリペイ』と連携させる必要がありました。しかし、アリペイが提供するインターフェース仕様書は中国語のみだったため、急いで翻訳しなければなりません。連携試験でも、提供される環境条件が日本とは異なるため、考え方、しくみ、方法論を現地に合わせる必要

がありました。NTT データは、人間系の工夫によってよく対応してくれたと思います」と中村氏。

現地での作業を効率化するため、開発の大半は日本からのリモートで行った。それだけに、日本と中国間のネットワークが遅延すると、開発スケジュールが遅れるという悩みがあった。解決策としては、日中間の接続にはターミナルサービスを用いて、ターミナル端末を一時的に増設したり、ネットワークが遅延しやすい時間帯を避けて、早朝・深夜に作業したり、複数の開発者が各種試験を並列に実施できるように緻密にスケジューリングするなどの方策を組み合わせた。

独自の教育メソッドと安定稼働システムに高い評価 パートナーシップ強化でさらに広げる ビジネスチャンス

2013年4月、U-CAN CHINA は、IT系5講座のeラーニングサービスを開始した。

「『e生涯』システムは、多数ユーザが集中しても安定稼働が維持できること、スマートフォン対応、独自性の高いU-CAN学習法の3点で、他のeラーニングシステムとの明確な差別化に成功しました。すでにB to Bの領域で、高い評価を受けています」と周氏。

中国商務部をはじめ、複数の中央官庁が、「e生涯」システムを社会人教育のプラットフォームとして採用する方針を決めており、国家レベルの大きなプロジェクトが複数進行中だ。また、大規模な国有企業や中央官庁が、社内教育用システムとして導入を検討している。

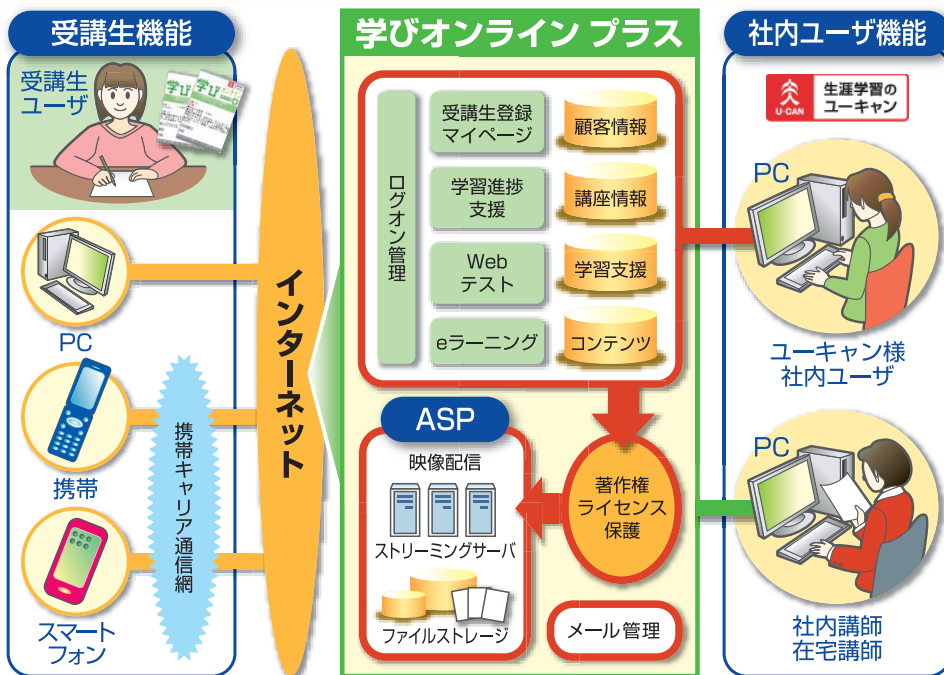
今後は、IT系5講座に続く形で、中国でも人気のある書道、デジタルカメラ、メイクアップ、そして、実用中国語などの講座提供を計画している。

特に注目したいのが、中国にいる外国人ビジネスマン向けの講座である実用中国語だ。中国人自身が開発したビジネス中国語のコンテンツはまだ珍しく、きわめて貴重な存在となる見込みだ。

「こうした価値の高いコンテンツを積極的に開発し、中国国内のみならず、グローバルに発信していきたい」と中村氏。さらに周氏は、「ユーキャンと成都ウィナーソフトは協業を深めて、2014年には、北米にも進出する計画であり、『成都発、世界へ』の動きは加速していきます」と熱を込めて語る。

北米以降のeラーニングシステムも、NTTデータが開発を担い、継続した保守・メンテナンスについても着実に支援していく。ユーキャンと成都ウィナーソフト、そしてNTTデータによるビジネス・パートナーシップの輪も、大きな拡大の途上にあるのだ。

学びオンラインプラス イメージ図



株式会社NTTデータ

第三法人事業本部
メディア・エンターテインメント事業部
TEL.050-5546-8929
<http://www.nttdata.com/jp/ja/case/> (お客様事例)